

ママたちの防災
【連続講座】レポート 第9回
●2012年12月7日(金)

「備えたいね! 防災グッズ」

つい疎かになりがちな、防災グッズ。災害時のポイントを中野区地域防災担当君塚さんにお話を伺いました。

Q. 本日のママたちの防災講座でいろいろ学べましたが、中でもポイントはなんでしょう。

A. 災害時には、普段手に入るものが手に入らなくなります。そういうことを知っていただく。生活の中から自分と家族にあったものを備えていただく。子供の年齢や月例に合わせた物を用意して、困らないように家にとどまれる準備しておく。あとは、お母さん自身が怪我をしない。地震の時はお母さんが走っていったお子さんを助けたくても助けられない場合があります。そのために家の中を安全にしておく、ということが子供を守ることに直結していくと思います。

あとは家族がばらばらな時に確実に連絡できる手段を確認しておく、それも大事だと思います。

そして、お子さんが家で長い間過ごす場所は確実に安全にしておく。

Q. 安全のために窓ガラスが飛び散らないシートを

貼りたいと思っても、なかなか一歩が踏み出せない、手問もかかるし...、とってしまいます。

A. そこをなんとか、お母さんに頑張ってもらいたいです。お母さんがやろうと思わないと、お父さんはなかなかついていけない場合もあります。子供の安全はお母さんに直結するんです。ですから、こういう機会を通じて、「やらなくちゃ」と思ってもらえることが大事だと思っています。ご自身がやらなくてはダメなんだと気付いていただくことが、こういう学習の目的です。

Q. 非常用持出袋のなかで重要なのは、食料、トイレなどですか？

A. 一番守らなくてはならない弱者を守るために、大人のものよりも、まずは子供の食べ物、飲み物が最優先だと思います。あるいは、アレルギーのお子さんであれば、薬を用意する。アレルギー対応の非常食はありませんから、保護者の方に用意していただきたいです。おむつも重要なものになってくると思います。普段からの備えを大切にしてください。



お話をくださった君塚さん。



子供の安全はお母さんが守らなくてはなりません!



非常食一例。缶やレトルトパックで長期の保存が可能。



100円ショップ Can★Do 中野鍋横店で購入できる防災グッズ。



コンパクト携帯トイレ 転倒防止などの耐震グッズ

ママたちの防災、Facebookで情報更新中。
<http://www.facebook.com/nabeyoko>

今回のレポートは藤原恵美子さんです。

ママたちの防災【連続講座】第10回 家庭で出来る簡単防災術 平成25年2月2日(土) 講師 木原 実さん (気象予報士・防災士)



《生きてこそその防災》

阪神淡路大震災や東日本大震災のことを交えながら、いつ何時起こるかわからない地震や火事などの災害から身を守るためにどうするのか？などのお話でした。印象的だったのは『地震が来たら、あなたは何をする?』という問いかけです。

地震大国・日本で育った私達は常に避難訓練などを通じて、地震が来たら、机の下に潜ると教えられてきました。保育園に通う息子も園の行事で、毎月避難訓練し『地震の時は、机の下に潜るんだよ』と教えてくれるほどです。

しかし、各地で発生する地震で自宅などが揺れると思わず天井からぶら下がってる照明のコードなどを見つめ、『ああ、揺れてる...』と確認してしまいませんか？昭和生まれの人にありがちな行動だそうです。私は受講する数日前に発生した地震でも、照明のコードを見つけていました。大きな地震の時は、この見つめている数秒で生死を分けることになります。実際に地震で家屋が倒壊したり、屋根が落ちたり、1階が押し潰されることもあります。その場合、何もせず上を見ている私はその時点で圧死もしくは大怪我を負うでしょう。そうならないために、『揺れたら身を隠す』が生き残るために出来る事です。

生き残らなければ、いくら非常用持ち出し袋を用意しても意味がないのです。昔は揺れたら火を消さないとも教えられた記憶がありますが、これも後回しです。とにかく身を隠し、『生き残ること』を最優先で考えなければならないのです。何事も生きてるからこそ、防災の知識が役立つ！まず、自分の命を守り、家族を、ご近所の方をと助け合いを広げて行くことです。

確かに防災とは『いざという時のため』ですが、その『いざ』は今日か明日かはたまた何年後か？誰にもわかり得ない時のこと。いつ何時でも『生き残ること』を肝に命じて生活しようと思えました。ちなみに、阪神淡路大震災では、倒壊した家屋などから助けられた方の7割が、ご近所さんなどの民間人による救出だったそうです。日頃ご近所との関わりが少ない昨今ですが、何かあってから繋がるのではなく、何もない今から繋がる必要性を感じました。挨拶をするなど、ちょっとしたことから始められれば良いなと思えました。



今回のレポートは原嶋恵子さんです

鬼は外 福は内

2月3日の節分に鍋横の街では「鬼は外 福は内」と賑やかな声が聞こえてきました。



鍋横区民活動センターに可愛い鬼がやってきました。鬼に扮したのは鍋横保育園の年長組さんたちでした。



西町天神で豆まきの前に厄除招福を祈願する、年男、年女の皆さん。



本郷氷川神社の豆まき